

僧伽 議会報告

▶『僧伽議会報告』をお届けします。去る2025年10月15日から16日の日程で第78回宗議会が開催され、新たに正副議長、宗務総長が選出されました。

また、2026年1月20日から22日の日程で第79回宗議会が開催され、2024年度の決算審査・議決を行いました。2つの分科会に分け、正味2日間という限られた時間で、常会に比べてタイトな日程だったため、総括質問の組み立てにも粗さがあり、今後の課題が残りました。まずはご一読の上、ご批評ください。

2026年1月 真宗大谷派宗議会「僧伽」

第78回宗議会臨時会が2025年10月15～16日の日程で開かれました。

宗議会議長選挙	投票総数	62票	花園 兼有議員	45票
			眞野 琢児議員	16票
			無効票	1票
宗議会副議長選挙	投票総数	62票	坂本 敏朗議員	44票
			藤原 正雄議員	18票
宗務総長指名の件	投票総数	61票	木越 渉氏	46票
			金子 光洋氏	14票
			白票	1票

第79回宗議会臨時会が2026年1月20～22日の日程で開かれました。

<可決成立した議案について（反対した議決については太字下線にて表示）>

- ・2024年度経常部臨時部歳入歳出決算書（山本、佐々木）
- ・2024年度第二種共済特別会計歳入歳出決算書
- ・2024年度東本願寺出版特別会計歳入歳出決算書
- ・2024年度東大谷墓地特別会計歳入歳出決算書
- ・2024年度首都圏開教推進本部特別会計歳入歳出決算書
- ・2024年度別途会計諸勘定計算書

<宗務総長挨拶（要旨）、2024年度決算概況（要旨）>

2026年 宗会(臨時会)宗務総長挨拶(要旨) 宗議会 2026年1月20日

皆様方には、平素より、法義相続・本廟護持、そして同朋会運動推進のために格別のご尽力を賜っておりますこと、ここに厚く御礼を申し上げます。

まずもって、昨年12月8日の青森県東方沖を震源とする地震や、今月6日に発生した島根県東部を震源とする地震など、国内外で頻発する自然災害に加え、未だ世界各地で繰り返される武力紛争等により被害を受けられたすべての皆様に、衷心よりお見舞い申し上げます。また、令和6年能登半島地震から2年が経過いたしました。依然として復興の道は平坦ではなく、被災寺院・ご門徒の営みも日々の苦労の中にあります。あらためてお見舞いを申し上げますとともに、引き続き、宗門をあげての支援を継続し、「災害に強い教団づくり」を目指してまいりたいと存じます。

さて、このたびの臨時会は、2024年度の決算審査のために招集させていただきました。すでに先の宗会において、宗議会・参議会双方から「決算審査及び承認の早期化」が全会一致で建議され、それを受けて2023年度決算からは審査体制の強化と時間的前倒しを進めてきたところであります。しかし、決算の早期化は「手続の改善」のみにとどまるのではなく、宗門全体の行財政の構造そのものを問い直すための重要な契機であると受け止めております。

申すまでもありませんが、ここ数年、人口構造の変化、寺院や門徒の減少に伴う影響、財政基盤の縮小など、宗門を取り巻く状況は急速に変化しており、構造的な課題が顕在化しております。宗務の執行体制は、もはや従前の延長では持続が難しく、行財政の再構築が急務となっております。その意味で、行財政改革は、もはや選択肢ではなく必須の課題であると受け止めております。

昨年の宗会(臨時会)では、この行財政改革を推進する上での姿勢として、第33願の「触光柔軟」ということを申し述べました。もう一度申しますが、我々には念仏がある。この念仏に絶対の信頼を置き、心を柔らかく保ち、決して握りしめないという姿勢が大切であると思っております。物事や状況は日々変化していきます。日々に、よりよい方途を選び取り、そして共に実行していく、そのような柔軟なる心を持った改革を共に進めてまいりたいと考えております。宗務の執行を預かる内局として、現実から目をそらすことなく、「宗門の持続可能性」を基軸にした行財政改革を、より実効的に進めてまいります。

最後になりますが、あらためまして、本臨時会では2024年度の決算を審査いただきます。議員各位におかれましては、本臨時会にて提案いたしました全案件につきまして、慎重なるご審議を賜り、何卒、全会一致をもってご可決賜りますようお願い申し上げます。

以上

2026年宗議会臨時会に提出の決算関係の議案について、2024年度決算概況を申し上げます。

まずは、2024年度宗派経常費御依頼の収納につきまして、ここにあらためてご報告いたします。御依頼総額50億2018万円に対し、54億2603万1204円、率にして108%の収納をいただきました。全教区からご完納をいただきましたことから、2024年度一般会計経常部歳入の「4款 相続講金」は105.8%、「5款 同朋会員志金」は108.9%の収納率となりました。宗門活動に深いご理解をいただき、格別の御懇念を賜りましたこと、心から御礼申し上げます。

さて、2024年度一般会計については、経常部・臨時部合わせた歳入額は87億8820万円、予算に対して100.8%の収納率であります。

経常部歳入は、84億4,177万円、収納率は102.3%であります。

2024年度予算において増額編成した主な科目を見てみますと、990万円増額編成した「1款1項3目 同朋会館冥加金」は収納率83.5%であります。前年度比1042万円の増収。「1款1項7目 不動産冥加金」は1425万円増額編成し、収納率120.5%、前年度比5093万円の増収。渉成園の拝観者にご協力いただく「7款 寄付金」は3600万円増額編成し、収納率104%、前年度比1569万円の増収。利息収入及び物品販売の他、文化財施設の活用により「9款 雑収入」は653万円増額編成し、収納率120.2%、前年度比1743万円の増となりました。

一方で、執行率の低い歳入科目を見てみますと、「1款1項2目 研修冥加金」の収納率は78.2%、「3款1項2目 帰敬式」の収納率は74.9%、「3款2項2目 門徒用授与物」の収納率は81.7%でありました。

次に、経常部歳出は、78億9478万円であり、予算に対して95.6%の執行率であります。

2024年度において能登半島地震の支援科目として新設した「7款3項4目 能登半島 地震災害復興支援費」は、宗務役員派遣及び御正忌報恩講における支援事業並びにボランティア支援センター運営費等として執行率87%、「同項5目 広域災害被災教区特別教化助成」は、能登教区への教化助成として執行率96.4%であります。また、全国からお寄せいただいた救援金は、2024年度は能登教区へ6951万4874円を給付し、これまで被災教区へ総額2億7651万4874円をお届けいたしました。被災された方々に思いを馳せ、救援金をお届けくださいましたことに、あらためて心から御礼申し上げます。

また、予算超過した主な科目として、教区指定・組主催の同朋の会推進講座へ助成する「4款2項1目 同朋の会推進講座」は実施数増により執行率119.5%、弁護士費用等を支出する「8款2項2目 法律相談費」は大谷専修学院に関する仮処分及び団体交渉に係る支出により211.6%、時間外勤務手当等を支出する「10款4項1目 諸手当費」は時間外及び通勤手当の増額により

105.4%、この増額に伴い「同項 2 目 社会保険費」は 106.5%となり、各項の予算超過分は、第 1 予備費より振替いたしました。

なお、「7 款 3 項 災害見舞費」の残額 621 万円は災害見舞準備金(現在の災害対応準備金)へ、「10 款 5 項 1 目 退職慰労金」の残額 9,617 万円は退職慰労金給付運用資金へ、それぞれ条例に則り繰入いたしました。

次に、臨時部歳出は、2023 年度より着工いたしました重要文化財指定の鐘楼及び手水屋形の修理事業を完了いたしました。

また、宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃事業を完遂するため 2023 年度から 2025 年度の 3 ヲ年度で実施する「6 款 慶讃事業継続費」は、執行率 59.6%であります。執行率が低い主な要因は、教区慶讃法要の助成に関して想定総額の半額である 5000 万円を計上した予算に対し、2024 年度勤修された教区が少なかった点及び宗祖親鸞聖人著作集の続刊の発行が 2025 年度に変更した点であります。なお、すでに 2025 年度予算編成で組み直しを行い、2025 年度で事業が達成されるよう取り組んでいます。

総じて、2024 年度一般会計経常部臨時部決算における歳入歳出差引剰余金は 5 億 5291 万円となり、半分である 2 億 7645 万円をそれぞれ 2025 年度平衡資金及び 2026 年度一般会計へ繰入いたします。

次に、第 2 種共済特別会計については、令和 6 年能登半島地震の被災寺院・教会へ復興共済金及び共済見舞金の総額 49 億 4013 万円を含み、歳出「1 款 共済金」において 52 億 4226 万円の給付を行いました。この支出超過額については、条例に則り復興共済積立金から 47 億 7908 万円の繰入を行っております。なお、復興共済積立金の残高は 43 億 3320 万円であります。

次に、東本願寺出版特別会計については、『真宗聖典第 2 版』『真宗大谷派儀式軌範』の頒布や EC サイト・お買い物広場での頒布増により、歳入「1 款 出版物冥加金」は、収納率 84.7%であります。前年度比 2700 万円の増収でありました。

次に、東大谷墓地特別会計については、繰越金を除く歳入小計は収納率 102.7%、墓地冥加金・読経志の増収及び万灯会の提灯価格改定による増収により、前年度比 356 万円の増収でありました。

次に、首都圏教化推進特別会計については、仏事代行及び会館執行法務の減少により歳入「3 款 1 項 1 目読経志」は収納率 75.9%、歳出「2 款 1 項 2 目 共同教化推進事業費」は執行率 62.0%でありました。また、歳入「1 款 一般会計回付受金」は、2024 年度決算より歳入歳出差引剰余が生じない必要額のみ一般会計から回付いたしました。以上、2024 年度決算概況といたします。

<決算委員会総括質問（5分） ～ 佐々木道範議員>

- ・第2種共済について～宗務審議会答申後の見通しと、財源の確保・南海トラフ地震への備えと被害想定について
- ・行財政改革について～宗門の目指す姿と具体的なビジョンをたずねる。
- ・出版特別会計について～残部のリーフレット等の活用について

<決算委員会総括質問（5分） ～ 中川和子議員>

- ・得度について～受式者増加への施策と剃髪の実施制について
- ・教師資格取得について～取得希望者への案内の方途について
- ・教化交付金について～一門徒指数の格差是正について

<議会を終えての所感>

「教化」を最優先に、宗派をあげて取り組んでいくという空気が感じられなかった。

「厳しい財政状況」なので、いかにお金を残し、新たな財源を生む方途を作るかなどに終始する空気感。大事なことではあるが、肝心の「教化」が疎かになり、「念仏」が聞こえないようでは、宗門の存在意義がいよいよ見失われてしまわないか。

この決算議会が次年度の予算編成にあたり、各現場の教化活動を支えるために様々提案出来る場であるには、12月中の審査が肝要である。

また、議員の多くが傍聴のみで日程を終えてしまうのは非常にもったいないと思うが、委員会の運営上致し方ない面もあり、決算審査の持ち方はまだまだ課題が残っている。

僧伽議会報告 2026年1月

発行・文責：真宗大谷派宗議会「僧伽」

代表：金子 光洋（新潟教区） 高橋 法信（大阪教区）
山本 龍昇（小松大聖寺教区） 浜口 和也（山陽四国教区）
佐々木道範（東北教区） 鳥取 慎吾（九州教区）
石田 悠晃（東北教区）
中川 和子（三重教区）



事務局 〒787-0452 高知県土佐清水市竜串 9-2 誓願寺
僧伽ホームページ sanga-otani.jp
僧伽メール sanga-otani@outlook.jp

僧伽ホームページ QR コード